

季刊マーメイド

逗子市立図書館報
第2号

2013年11月1日発行
逗子市立図書館
逗子市逗子4-2-10
046(871)5998
(電話案内サービス)

泉鏡花生誕140年記念特集

鏡花ゆかりの逗子をめぐる旅



今年（平成25年）は明治の文豪
泉鏡花の生誕百四十年です。逗子
とゆかりが深く、逗子を舞台にし
た作品を多く残した鏡花の足跡を
たどってみました。

近代日本人の肖像

<http://www.ndl.go.jp/portrait/>

泉鏡花

1873（明治6）生～1939（昭和14）没

石川県金沢生まれ。1890（明治23年）作家を志し上京、翌年尾崎紅葉の門下生となる。

主要著作：1895『夜行巡查』『外科室』1899『高野聖』1907『婦系図』1910『歌行燈』他多数。浪漫的情緒と練り上げられた独特のリズムを持つ文体が鏡花文学の魅力。

『コンサイス日本人名事典 改訂新版』より

九月、雨もようの一日、泉鏡花ゆかりの逗子をめぐりました。まず桜山五丁目の旧居の辺り、そこから観蔵院へ。



明治35年 8月〜9月、鏡花は桜山五七六番地（当時）に滞在しました。現在の桜山五丁目付近です。病氣療養のためですが、神楽坂の芸妓桃太郎（後に妻となる伊藤すず）が訪れたり、華族の令嬢数人がおしかけてきたりと、なかなかにぎやかでした。この地を舞台に描かれたのが『起誓文』『舞の袖』です。



桜山5丁目 観蔵院本堂

桜山の山裾に沿って宗泰寺に向かいます。この道筋は当時のままです。田越橋を渡って、逗子五丁目の旧居跡に着きました。ここは、現在、駐車場に様変わりしていますが、昔はこの旧居の裏辺りを田越川が流れていたそうです。

明治38年〜明治42年、再び鏡花は逗子に居を移し、亀井九五四※（当時）に滞在しました。現在の逗子五丁目付近です。この滞在は四年におよびます。当時文壇では自然主義文学が席巻していました。浪漫主義の旗手であった鏡花には不遇の時代でしたが、ここで、『春昼』『春昼後刻』『草迷宮』『婦系図』等の傑作を執筆しています。

当時の逗子の様子を記した随筆も残されています。

「裏田圃の川べりの、蘆の葉釣うらたんぼ かわべり の あし はつりと称えるのを小半時行つて、鰻こはんときや ぶくを一尾いっぴきして遣りましたよ。」『蘆の葉釣』より

※鏡花の書簡には「相州逗子九五四方」と「相州逗子九五七」がある。『逗子雑記 逗子の季寄せ 逗子の文学』 森谷定吉著より（令和6年5月1日追記）

次にJ R 逗子駅横の踏切を渡り、山の根の泉名月さんの旧宅跡へ。

名月さん（昭和8年生、平成20年没）は鏡花の姪にあたり、すず夫人の養女となった方です。名月さんの自宅のあった所には、現在鏡花の句碑が建っています。

わが恋は 人との沼の 花あやめ
人との沼とは何処の沼でしょうか、いかにも鏡花らしい句だと想像を巡らします。



山の根 2 丁目 鏡花句碑

そこから久木トンネルを抜けて、いよいよ岩殿寺へ。山門までの道端に、坂東三十三観音札所御詠歌碑が並んでいます。

「突當りが、樹の枝から梢の葉
へ擲んだような石段で、上に、茅
ぶきの堂の屋根が、目近な一朶の
雲かと見える。棟に咲いた紫羅傘
の花の紫も手に取るばかり、峰
のみどりの黒髪にさしかざされ
た装の、其が久能谷の観音堂。」
『春昼』より
当時の地名「久野谷」を「久能谷」と表記していますが、観音堂とは久木の岩殿寺のことです。



岩殿寺 本堂

坂道を上がると吉祥門とよばれる山門、その脇に鏡花の句碑があります。

普門品 ひねもす雨の 桜かな

観世音菩薩の信心が篤かった鏡花を思い起こさせ、「がんでんじ」というごっこつした感じのよび方ではなく、鏡花のように「いわとでら」「いわとのでら」と言いたくありません。

山門を入ってすぐ正面の石段は、往時のままで、風情があります。

鏡花が毎日のように参拝していたというご本尊は拝めませんでした。が、鏡花が寄進した心字池や、爪堀地藏、蛇の矢倉をめぐり、小高い場所に立つ露天の観音像を押し、帰途につきました。

大崎公園にも泉鏡花の句碑があります。

秋の雲 尾上のすすき 見ゆるなり

自分の干支から七番目にあたる干支のものを集めると縁起が良い、という亡き母の教えを受けて、酉年生まれは鏡花は、うさぎの置物を集めていました。このエピソードにちなんで、大崎公園の句碑はうさぎをかたどっています。



豆子についての記述がある主な鏡花作品

- 『豆子だより』桜山に住んだときの風情 28・337
『手帳四五枚』豆子の寺に泊り、後に桜山に住むいきさつ 28・330
『起誓文』桜山中里を舞台にした物語 7・293
『舞の袖』起誓文の後篇 7・395
『白羽箭』豆子と森戸の浜 5・441
『豆子だより』豆子の住居と岩殿寺 28・387
『春風』久木 岩殿寺 10・215
『春風後刻』久木 豆子海岸 10・287
『草迷宮』豆子 桜山 *舞台は横須賀市秋谷 11・169
『蘆の葉釣』亀井の住居の裏の川の釣 28・428
『情景相伴う名物の美―「名物の印象」』豆子の鯨 28・809
『松翠深く蒼浪遙けき豆子だより』豆子の情景 28・484
『二三羽―二三羽』亀井に住んだときに飼ったメジロ 27・307

*数字は『鏡花全集』（岩波書店）の巻号・頁